

# 『みんなのケータイ2』

## 学習指導案





# はじめに

## モバイル社会における子ども達の安全のために

平成18年度現在、日本では携帯電話・PHSの利用は9,900万契約に達し、日本の生産年齢人口を大きく上回っています。そのことは、まだ自分で収入を得ていない多くの子ども達にも普及し、日常的なコミュニケーションツールとして携帯電話が利用されていることを意味しています。

特に最近ではインターネットやデジタルカメラなどが携帯電話に取り込まれて、ますます便利で楽しくなりました。子ども達を含めた若年層を中心にライフスタイルが大きく様変わりしています。

しかし、便利で楽しい一方で、有害情報や架空請求詐欺、犯罪などに子ども達が巻き込まれてしまうということも出てきています。さらに、組織的犯行が加わり巧妙化・悪質化が進んでいます。

本書の中では、一見刺激的な表現や、遊び風な漫画といった表現を子ども達に自分たちの問題だと考えさせるための工夫として使っています。携帯電話の利用に関連した8つの事例を基に、モラルやコミュニケーション・行動について自ら考えることを狙っています。この中で扱われる事例はすべて複合的な原因を持っています。それは技術が日進月歩する中で、状況変化をよりよく理解し、より賢く行動するためには、子ども達自身が考えて対処しなければならないからです。取り扱われた事例について生徒・児童の意見が分かれるかもしれません。「こうすれば良い」という対策をマニュアルとしてではなく、「どうすれば良いのか」を考える一助になれば幸いです。

通信ネットワークが世の中の末端まで行き届き、人々がさまざまな活動をしながらかテレコミュニケーションするモバイル社会において、どのような人材をどのように育てるかを考える場合、いささかなりとも本資料がお役に立てればと考えております。

株式会社 NTT ドコモ モバイル社会研究所

所長 石井威望

## ● 「ケータイ」という呼び方について

本書「みんなのケータイ2 指導案」また、テキスト「みんなのケータイ2」では、携帯電話や PHS を「ケータイ」という表現で取り扱っています。

多少の違和感もありますが、昨今の子供達メディア観を反映する意図により、この表現を採用しました。

以前、携帯電話を保有していない小学生に、携帯電話の便利なポイントを尋ねたことがありました。その際、

- ・メールができる
- ・カメラが付いている
- ・写真を送ることができる
- ・ゲームができる

といった内容に続いて、

「電話“も”できる」

という回答が出てきました。

この「電話“も”できる」は、携帯電話を電話機として見ていない、現代っ子のメディア観を象徴する表現ではないでしょうか。

実際の利用状況も、電話にくらべメールの方が利用頻度は高く、またメモリーは写真や動画でいっぱいです。

子どもたちは、まさに、携帯電話をネットワークコンピュータとして利用しているのです。

このような今時の子ども達のメディア観を反映させるべく、

**携帯電話＋インターネット＋デジタルカメラ＝「ケータイ」**

という意味合いにより、「ケータイ」という表現を利用しています。

## 「みんなのケータイ2」 ケース No.ごとの概要

「みんなのケータイ2」に掲載の事例（No.1～No.8）ごとに、以下について説明します。

- ・ 対応することがら
- ・ 目的
- ・ 背景

授業で取り上げる際の参考にしてください。

## ケース No.01

メールで友だちと夜中までおしゃべり。楽しいけれど、でもちょっと…



対応することから

- ・ 友だち関係とケータイ
- ・ メール の 使 い 方
- ・ 生 活 習 慣 の 確 立

目  
的

- ・ 相手の顔が見えない状態でのコミュニケーションでは、常に相手の都合を考えて行動をすること。
- ・ メール の 返 事 を 「 す ぐ に 」 、 ま た 「 い つ ま で も 」 す る こ と が 親 密 度 で は な い こ と 。
- ・ 1 つ の 手 法 に 限 定 ・ 依 存 せ ず 、 多 様 な ツ ー ル や 方 法 を 活 用 す る こ と が 、 友 だ ち と の コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン を 良 好 に 継 続 で き る こ と 。

背  
景

ケータイによるコミュニケーションをとる上で、「友人とのメールが終えられない」「電源を切りたいことが伝えられない」という悩みを持つ中学生が多い。メールを自分から終えようとする中で、相手に対しては「嫌っていると思われる」という不安を持ち、また相手からは「嫌われてしまうかも」という恐れを持つ。固定概念的な独自ルールに縛られ、同時に互いを縛りあっているといえる。大人が思うほどケータイを途中でやめることは、中学生にとって容易ではない現実がある。

## ケース No.02 ケータイ持ってなきゃ、友だちじゃない!?



対応することから

- ・ 友だちとはなにか
- ・ コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン を と る 、 と い う こ と
- ・ イ ジ メ を 考 え る

目  
的

- ・ ケータイの所持だけで、接する友だちを固定化したり、接し方を変える行為は、結果的に自分の知見や経験を狭めることになる。
- ・ ケータイを「所持している者」－「所持していない者」間のコミュニケーションをどうとるか、考え実現しようとするのが大切。特に、ケータイを所持していないことで卑屈なったり怯えずに、どうコミュニケーションをとるか、考えさせる。

背  
景

ケータイを所持しなければ、友だちの輪に「入れない」「入りづらい」と必要以上に怯える子どもが急増している。裏を返せば、ケータイを所持している者同士だけで固まってしまう傾向の表れである。ケータイを所持している者同士であれば、常に「つながっている」ことが実感でき安心感が得られるため、このような傾向に陥りがちになる。また、ケータイによる友だちの輪に入れない者の立場や環境が、ケータイ所持者間のコミュニケーションに影響され、著しく変わってしまう可能性がある。

## ケース No.03 音楽ダウンロード、甘くみてました



対応することから

- ・契約とはなにか
- ・賢い消費者になるために
- ・「サービスを買う」とは

<p><b>目的</b></p>	<p>ケータイのコンテンツ利用に関して、次のことを教える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ケータイ上の操作であっても、「契約」が成立していること。また、わずかな金額であっても、「契約」には責任が発生すること。</li> <li>・実際の店舗による買い物とは異なり、継続的な支払いが要求されるものが多いこと。</li> <li>・瞬間的に満足を得られたいことに対して、どれくらいのコストや手間がかかるかを考えた上で、サービスを利用すべきこと。</li> </ul>
<p><b>背景</b></p>	<p>ケータイのコンテンツ利用に料金が発生しても、自分のサイフから現金がなくなっていくわけではないため、金銭を消費しているという実感が湧きにくい。</p> <p>また、中学生くらいの年齢では「契約」＝「支払いの義務」という認識を軽く考える傾向がある。そのため、そのコンテンツに飽きるなどして利用しなくなったときに「解約」＝「利用と支払いを終えるための手続き」を行わないことがある。</p>

## ケース No.04

### 持ち込み禁止、だから検索願ひも禁止!? 学校で消えたケータイの行方…



対応することから

- ・校則を守る、ということ
- ・謝ること、反省すること、信頼されること
- ・ケータイの紛失、盗難への備え
- ・使用済みケータイの処分方法

<p><b>目的</b></p>	<p>ケータイ紛失が招く事態の重さについて、次のことを教える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ケータイ所持」＝「自分、他人の個人情報をも所持」と同じ。</li> <li>・ケータイの紛失、盗難に備え、被害を最小限に留める方法を理解しておくことの必要性。</li> <li>・使い終わったケータイの処分方法。</li> </ul>
<p><b>背景</b></p>	<p>中学生くらいの年齢では、個人情報の重要性を軽く考える傾向がある。特に、使い終わったケータイの処分方法については理解が浅い。紛失、盗難に遭った場合、被害を最小限に抑える方法を教える必要がある。</p>

## ケース No.05 超常現象? 知るはずのない人からくるメール…



### 対応することから

- ・ 掲示板のトラブル
- ・ ネット上での、個人情報の流出（画像も含む）
- ・ ネット上に、悪口を書く、書かれる
- ・ サイトを利用するという事

### 目的

掲示板など、ネット上での書き込みについて、次のことを教える。

- ・ ネット上での書き込みは、自分が想像する以上に多くの人目に触れていること。自分が書き込んだ内容を見た人間がその情報をどう扱うか、また、不特定多数の人目に触れてしまう危険性について。
- ・ 特定人物の内容を書き込んだ場合、書かれた本人がそれを見てどう思うか。また、学校や住所、メールアドレスなど、個人を特定できる内容を書き込んでしまい、トラブルに発展する危険性について。

### 背景

学校や部活動の仲間内などのプライベートな掲示板はもちろん、インターネット上でおおよけになっているインフラ（掲示板、自己紹介サイトなど）上でも、個人レベルの日常での内容や話題を書き込むケースが増えている。書き込んだということを誰にも教えなければ、不特定多数に広まることはないという感覚からか、書かれた人物が特定でき、探し出すことも可能な内容が見受けられる。同様に、特定人物に対する誹謗や中傷が多く見受けられる。

## ケース No.06 ファンサイトを語る、出会い系のワナ



### 対応することから

- ・ サイトを利用するという事
- ・ ネットに仕掛けられたワナ
- ・ ネットに潜む危険

### 目的

サイトを利用したコミュニケーションについて、次のことを教える。

- ・ 趣味が同じ、という理由で、サイトを通じて知り合った人物に危険性がないと断定できないこと。
- ・ 文字だけならば、どんな人物像でも作り上げることが可能なため、文字だけのコミュニケーションで親密な関係を築く、あるいは相手を信用してしまうことの危険性。
- ・ 自分自身の個人情報をサイト上に書き込んだり、また、実際に会うという行為は、慎重に行うべきこと。

### 背景

出会い系サイトに関する規制法が成立した後も、出会い系のサイト数は減少していない。逆に、出会い系サイトと判断しづらく利用後に気づくなど、覆面的な出会い系サイトが多々、見受けられる。その一方で、利用する側、特に中高生の間では、「仲の良い友だちや先輩などから紹介されたから安心」といった思い込みも多く、トラブルに発展しやすい。

## ケース No.07 人のふり見て我がふり直せ…だね



### 対応することから

- ・ケータイのマナー
- ・日常生活下のマナー
- ・周囲を気遣う、また注意すること

### 目的

いわゆるマナーについて、次のことを教える。

- ・マナーは、ケータイ使用に関することも含め、日常生活下のすべてに必要なこと。
- ・ケータイを使っているときは、特に周囲のことが見えにくくなっている。そのため、知らないうちにマナー違反を起こしている可能性があること。
- ・自分の行為を振り返らせ、それがマナー違反でないか、また何が問題なのか自らが気がつかせること。

### 背景

現在の社会環境にあって、子どもだけでなく大人もまた、マナー違反を行っている。社会全体のマナーが低下しているといえる。このことから、子どもたちは、誰からも具体的なマナーについて学べない、また、教われない状況にいる。このような環境下で、ケータイは、さらなる機能の充実もあり、いつでも利用できる状態にある。

## ケース No.08 サッカーのサイトを見ていたはずなのに…



### 対応することから

- ・悪徳商法から身を守る
- ・ネット上の詐欺
- ・賢い消費者になるために

### 目的

サイトの利用について、次のことを教える。

- ・不当請求、架空請求の手口と、万一被害に遭った場合の対処方法
- ・興味や好奇心が先走り、未成年にふさわしくないコンテンツなどを閲覧、利用した場合、それから受ける影響が必ずあること

### 背景

「ケース No.06」同様、現在も多くの詐欺サイトが存在している。年齢制限を表示していても、使う側の倫理観に依存している。そのため、未成年でも簡単に閲覧でき、中学生も少なからず被害に遭っている。アダルト系サイトの割合が高いため、被害届けが出にくく、事件として発覚する可能性は低い。

## 「学習指導案」 サンプル

「みんなのケータイ2」を授業で活用するための、指導案サンプルです。  
以下の授業についての指導案を掲載してあります。

- ・ 特別活動（学級活動）
- ・ 総合学習
- ・ 道徳

<注意>

- ・ 当サンプルは、実際の授業に際しては、適宜、改変してご利用ください。  
学年、組、実施する年月日、時限は空欄のまま、掲載してあります。

## 第 学年 特別活動（学級活動）学習指導案

### 1 日時・学級

平成 年 月 日（ ） 第 校時 年 組

### 2 単元名

「今こそ考えよう、ケータイとコミュニケーション」

※関連事項：情報リテラシー、情報モラル

### 3 単元のねらい

（補足）：現在、幅広い年齢層において、携帯電話によるトラブルや被害が拡大している。これらの原因の多くは、コミュニケーション能力の不足や、自分にも起こりうる問題としての認識不足、リスクに対する視点の欠如によるものと考えられる。

携帯電話の使い方を通じて、生徒の社会性の不足や、社会の一員としての自覚不足を補い、責任ある行動がとれる人間の育成を目指す。生徒には次の2つの対応力と観点が持てるように、指導する。

- ・被害者にならないための危機に対応する力
- ・加害者や傍観者にならないための倫理観

### 4 本時の学習

#### ●本時のねらい

携帯電話の便利さの裏側に、どのような問題点があるのか、携帯電話に関連した8つの事例をもとに身近な問題として考えさせる。

- ・各事例をもとに、危険性を認識させる。同時に、対応するための知識を習得させる。
- ・携帯電話などの道具が、利用の仕方によって有用また有害になることを意識させ、倫理観を育成する。

● 本時の展開

(補足) テキストは、特定非営利活動法人とうきょうED研究会が、モバイル社会研究所と共同開発した「みんなのケータイ2」を使用。以降、「テキスト」と記載。

	主な学習活動	指導上の留意点また目的・効果
導入 10	<p>ケース No.07 内の「CHECK UP!」からマナー違反を探してみよう。</p> <p>=携帯電話のマナー違反を探す。</p>	<p>・テキストを配布し、記名させる。</p> <p>・班の隊形をとらせる。</p> <p>学習内容の概要を把握させる。</p>
展開 1 10	<p>8つのケースのうち、6つのケースについて、各班で考えてもらいます。まず、それぞれ指定したケースの左ページのマンガだけを読んで、問題点を個人で考えワークシートに記入しましょう。</p> <p>=各個人でマンガ(事例)を読ませ、ワークシートに記入させる。</p>	<p>・ワークシート1を配布する。</p> <p>・ワークシートに記名する。</p> <p>・ワークシートに、問題点を記入するように指示する。</p>
展開2 15	<p>「班ごとに指定されたケースについて、対策を話し合います。中学生として、また保護者や携帯電話会社の立場でも考えましょう。」</p> <p>=班ごとに話し合わせる。</p> <p>話し合っただけの結果をワークシートに記入しましょう。</p> <p>=話し合った結果を、ワークシートに記入させる。</p>	<p>・展開3では班ごとに発表させるので、あらかじめ発表者を決めておくように指示する。</p>
展開3 10	<p>班ごとに発表してください。気づいたことはワークシートに記入しましょう。</p>	<p>・ワークシート2を配布する。</p> <p>・他の班の発表で気づいたことメモしておくように指示する。</p>

	＝班ごとに、まとめた内容を発表させる。同時に、気づいたことをワークシートに記入させる。	
まとめ 5	＝授業全体で、気づいたことや感想をワークシートに記入させ、提出させる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・班の隊形を解除させる。</li> <li>・ワークシートをまとめさせる。</li> </ul>

## 5 評価（評価の内容及び評価の方法）

- ・ 6つの事例を、身近な問題とする知識が得られたか。
- …学習時の観察（個人の活動）、ワークシートの記入内容
- ・ 被害者になる可能性を認識しようという姿勢が見られたか。
- …学習時の観察（班での活動）、ワークシートの記入内容
- ・ 対策を考える力がついたか。
- …ワークシートの記入内容、発表状況と発表を聞く様子

# 今こそ考えよう、ケータイとコミュニケーション（1）

1. グループで選んだ事例について、どんな問題点があるかを書き出してみましよう。

事例の番号	事例の名前
どんな問題点があるか	

2. グループで話し合い、「中学生として気をつけなければならない点」「あなたが保護者だったらどんな点に気をつけるか」「あなたが携帯電話会社だったらどう対応するか」を考えて出し合い、各グループに発表してもらいます。（発表者を決めておこう）

中学生として気をつけることは (出会わないためにどうするか)
(出会ってしまったらどうするか)
あなたが保護者の立場だったらどうするか
あなたが携帯電話会社の立場だったらどうするか
その他気づいたこと、考えたこと

年 組 番 氏名
----------

# 今こそ考えよう、ケータイとコミュニケーション (2)

## 3. 他のグループの発表で、気づいたこと

タイトル	

## 4. 全体を通して、気づいたこと、考えたこと

--

年	組	番	氏名
---	---	---	----

## 第 学年 総合的な学習の時間学習指導案

### 1 日時・学級

平成 年 月 日 ( ) 第 校時 年 組

### 2 単元名

「情報メディアの特性と活用方法」

※関連事項：情報リテラシー、情報モラル、集団生活

### 3 単元のねらい

(補足)：総合的な学習の時間は、自分で課題を設け、それを解決する能力の育成が目的。

その一環として、メディアの特性を理解し、適切に利用することを学ぶ必要がある。

これを、中学生の所有率が急速に高まっている携帯電話を題材として、実践する。

携帯電話の使い方を通じて、情報メディアの活用能力の伸張をめざす。そのために、生徒には、次の3つについて着目させる。

- コミュニケーション手段には、直接相手と会話することと、携帯電話という情報メディアを利用した会話がある。
- この2つの手段を比較すると、携帯電話の特性がわかる。
- コミュニケーション手段として携帯電話を使う際には、この特性を上手に利用する必要がある。

### 4 本時の学習

- 本時のねらい
  - ・携帯電話という、パーソナルな情報メディアの特性を認識させる。
  - ・携帯電話を使ったコミュニケーションと、使わないコミュニケーションの違いを認識させる。状況に応じてコミュニケーション手段を選択する能力を身につける。
  - ・携帯電話を使うにあたって困っていることを改めて認識させる。
  - ・直接、会話して成り立つコミュニケーションにも技術が要求され、経験を重ねるごとに習熟していくものであることを認識させる。

●本時の展開

(補足) テキストは、特定非営利活動法人とうきょうED研究会が、モバイル社会研究所と共同開発した「みんなのケータイ2」を使用。以降、「テキスト」と記載。

	主な学習活動	指導上の留意点また目的・効果
導入 10	<p>メールで友だちと話しをする人は挙手してください。</p> <p><b>=挙手させる</b></p> <p>それではメールで友だちと話をするときは何回くらいメールをおくり</p>	<p>・テキストを配布し、記名させる。生徒には、メールの体験から学習することを把握させる。</p> <p>・生徒たちが、メールで友だちとコミュニケーションをどのくらいの頻度でとっているのか、把握する。</p>
展開 1 10	<p><b>=ケース No.01 を読ませる</b></p> <p>ケース No.01 を読んで、そのとおりだと思う人はいるかな？</p> <p><b>=挙手させる</b></p> <p>どこに共感するかな？</p> <p><b>=経験がある生徒に、ケース No.01 のどこに共感したかを、自分の経験になぞらえて発表させる。</b></p>	<p>・生徒の経験を引き出す。</p>
展開2 15	<p>メールは相手が見えないから普通の会話と違うね。どこが違うかな？</p> <p><b>=メールをつかったコミュニケーションの特性を考えさせる。また、意見を出し合わせる。</b></p>	<p>・経験者は、自分のメールでした雑談を語らせる。未経験者は、それがどんな体験なのか、経験談から理解させる。(*補足1)</p>
展開3 10	<p>本当の友だちとは何だろう？</p> <p><b>=本当の友達、大切な友だちとは何か考えさせる。また、意見を出し合わせる。</b></p>	<p>以下のことを気づかせる。</p> <p>・自分の刹那的な感情に友だちを付き合わせることの無意味さ。</p> <p>・友だちとの付き合い方にも、いろいろな方法があり、時によってその方法を選択しなくてはならないこと。</p>

<p>まとめ</p> <p>10</p>	<p style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; display: inline-block;">友だちとの会話にメールを使うなら、どんな使い方がいだろうか？</p> <p>=メールを使うときに注意することを箇条書きであげ、確認する。</p>	<p>必要な情報の交換と、最低限の意思疎通に限られるのがメールの使い方だと気づかせる。</p>
----------------------	--	---

(\*補足1): 経験者からは会話自体のタイミングがつかめないことや、念を押したくなる感覚に囚われることを、引き出す。

## 5 評価 (評価の内容及び評価の方法)

- ・メールを使うことは、直接、会話して成り立つコミュニケーションと違うことに気づいたか。

…授業での発言、学習時の観察

- ・メールを使うときには、どのようなことに注意すべきか、あげることができたか。

…授業での発言、学習時の観察

## 第 学年 道徳 学習指導案

### 1 日時・学級

平成 年 月 日 ( ) 第 校時 年 組

### 2 単元名

「今こそ考えよう，ケータイとコミュニケーション」

### 3 単元のねらい

・自分と、「他者」である友だちとの相互関係について認識させる。そのために、次の3つに着目させる。

①友情の尊さ

②心から信頼できる友だちを持つ

③互いに励まし合い、高め合う

・自分と、集団や社会との相互関係について認識させる。そのために、生徒には、次の3つに着目させる。

① 法やきまりの意義を理解し、遵守すること

② 自他の権利を重んじ義務を確実に果たすこと

③ 社会の秩序と規律を高めるように努めること

#### 4 本時の学習

##### (1) 本時のねらい

- ・携帯電話の便利さの裏にある問題点に気づき、機器に縛られない人間関係を築く大切さを認識させる。
- ・倫理観を持たせ、社会の中の1人として責任ある行動がとれるように、認識させる。

##### (2) 本時の展開

(補足) テキストは、特定非営利活動法人とうきょうED研究会が、モバイル社会研究所と共同開発した「みんなのケータイ2」を使用。以降、「テキスト」と記載。

	主な学習活動	指導上の留意点また目的・効果
導入 10	<p><b>=ケースNo.01 とケースNo.02 を読ませる。</b></p> <p>ケースNo.01 とケースNo.02 のマンガを読んで、班で問題点を話し合しましょう。</p> <p><b>=自分にも似たような経験がないか</b></p>	<p>・テキストを配付し、記名させる。</p> <p>・班の隊形にさせる。</p> <p>自分自身の経験や、友だちの経験談など、身近な事例を挙げさせる。</p>
展開1 20	<p>会って話すときと、メールの文面だけのやり取りの違いはどこにあるかな？</p> <p><b>=気持ちを伝える工夫について話し合わせる</b></p>	<p>対面のコミュニケーションの大切さを考えさせ、認識させる。</p>
展開2 15	<p>p.17のイラストを見て、マナー違反を見つけてみよう。</p> <p><b>=マナー違反の場면을指摘する</b></p> <p>見つけたマナー違反を、今度はみんなの学校での生活上に照らし合わせてみよう。</p> <p><b>=学校での行動に結びつける</b></p>	<p>日頃の自分の行動にあてはめて考えさせる。</p>
まとめ 5	<p>授業を通じて気づいたことを記入しましょう。</p>	<p>ワークシートをまとめさせる。</p>

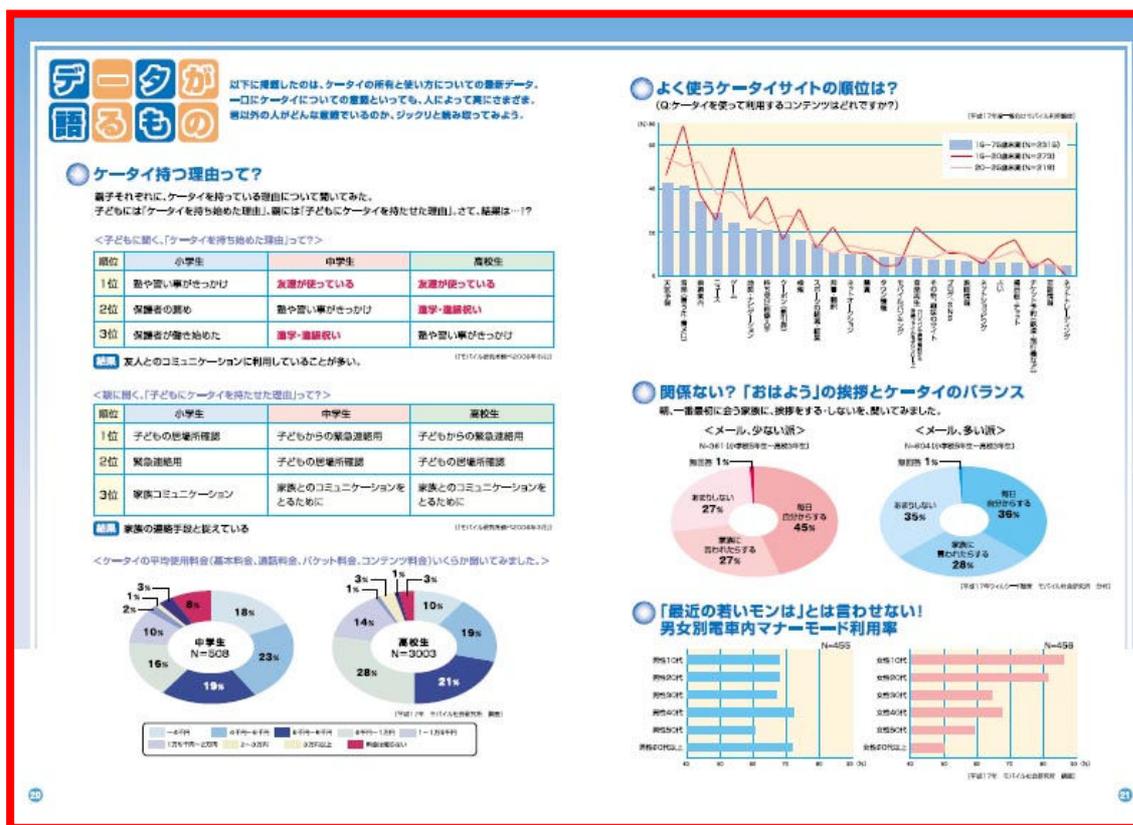
#### 5 評価

- ・ 友だちとのつきあい方について、見直すことができたか。
  - …班での話し合いの内容
- ・ 社会の中での個人の責任について考えることができたか。
  - …班での話し合いの内容

## 「みんなのケータイ2」 ケース No.以外の解説

「みんなのケータイ2」の「データが語るもの」「携帯報道」を授業で活用するための、授業指導案です。

## ● 「データが語るもの」解説と活用のヒント



「みんなのケータイ2」の p.20 「データが語るもの」は、生徒に、ケータイが社会に及ぼしている影響や、今の自分自身とケータイとの関係などを考えさせるための、素材的な資料ページです。

自分なりの答えや考えを求めたり、グループ活動で討論させるなど、生徒が1人の人間として考え、意見が出せるようになるための訓練教材として活用してください。

教員が子どもたちに授業を行うときの補助資料として使っても、十分な効果を上げることができます。

そのほかには、保護者会で保護者に提示する資料として、また、校内研修の教材として、活用できます。

授業でこのページを利用する前に、資料に出てくる項目について校内や学年内でアンケート調査を行っておくと、全国の傾向と比較するなど、幅広い活用ができます。

## ■ 各項目の解説

小タイトルごとに、資料が示すデータの特徴、授業での使い方、補助資料としての活用の仕方を説明していきます。

### ○「ケータイ持つ理由って？」について



#### 資料の特徴

持たせる側と持たされる側の、大きなへだたりが表れています。

中学生・高校生は、ともに「友達が使っている」という持ち始めの理由が第1位です。これは、「みんなが持っているから、自分も持ちたい」という気持ちの表れです。電話機としてケータイが必要なのではないのです。

これに対して、保護者は「緊急連絡用」や「居場所確認」が必要と考える理由の第1位です。これは、電話機として、ケータイが必要であるから持たせる、ということを示しています。

## 授業の展開

「資料の特徴」にそって、ケータイを持つ理由のデータについて生徒に考えさせてください。このとき、生徒が1人の人間として、自分なりの結論が出せるように導いてください。質問に対する理由や答えをほかの人に説明できるように考えさせることが重要です。以下に生徒への質問の例を挙げます。これを参考に、独自の質問を作ってください。

質問例	独自の質問
「必要だから」持つわけではないケータイ。だから、ケータイを持ってなくても困らないんじゃないかな？何が本当に困るのか考えてみよう。	
友達が持っているからケータイを持つ。では、なぜ自分も持たなきゃいけないのかな？	
ケータイを持つために、どんな理由なら、みんなのご両親は納得するかな？	

そのほか、「ケータイを持つことで、家族との連絡を取るようになったか」など、保護者の理由に挙げられている項目についても質問してみましょう。

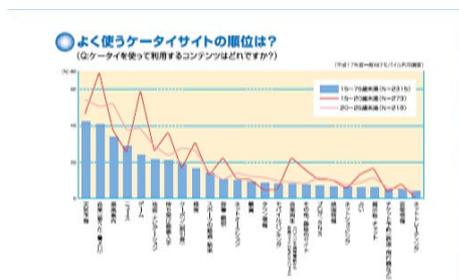
## 補助資料としてお使いいただく場合

該当ケース No. : 「ケース No.2 ケータイ持ってなきゃ、友だちじゃない？」の説明や、議論をさせるときのきっかけになります。また、p.7にある「ケータイ持ってる？持っていない？」の資料と合わせると、理解を深めることができます。

## ○「よく使うケータイサイトの順位は？」について

<注意>

生徒には、データ内容の読み取りをさせる前に、グラフ自体の見方を説明してください。また、このデータから読み取るべき内容についても簡単に説明してください。



### 資料の特徴

全体傾向は、なだらかなグラフになっているものの、15～20歳未満だけは、音楽、ゲーム、待ち受け画像といった部分にピークが見られます。このことから、特定のサイトに比較的利用が集中しているとわかります。

### 授業の展開

このグラフに記載された種類のコンテンツと、生徒自身のコンテンツ利用を照らし合わせるように授業を展開してください。

以下に生徒への質問の例を挙げます。これを参考に、独自の質問を作ってください。

質問例	独自の質問
なぜ、そのサイトを利用したいと思ったのかな？	
誰かに紹介したことある？	
あてはまるサイトを利用したことがないのはなぜ？	

### 補助資料としてお使いいただく場合

該当ケース No. : 「ケース No.3 音楽のダウンロード、甘く見てました」

この資料を見せて傾向を納得させてから、マンガを見せます。

逆にあとから資料を見せて、過去に自分も契約していたサイトがあったかどうか思い出させるということに利用できます。今、興味を持っている内容以前のことは、忘れがちな傾向があるからです。特にケータイの機種変更やキャリア変更を行っている時、それ以前の端末で使っていたコンテンツのことは忘れていく傾向が強いです。

コンテンツ利用に続いて「検索」にもピークがありますが、検索した結果表示されるサイトの中には「ケース No.8 サッカーのサイトを見ていたはずなのに…」のようなものもあるかもしれません。関連して紹介しておくのもよいでしょう。

## ○「関係ない? 「おはよう」の挨拶とケータイのバランス」について

### ●関係ない? 「おはよう」の挨拶とケータイのバランス

朝、一番最初に会う家族に、挨拶をする・しないを、聞いてみました。



### 資料の特徴

メール利用の多い、少ないにかかわらず、「自分からする」「言われたらする」「ほとんどしない」の割合が、だいたい 1/3 ずつある傾向が読み取れます。

### 授業の展開

ケータイを「持つ・持たない」、使用頻度が「高い・低い」の違いによって、日常生活の行動に差異があるのか、議論させましょう。「本当に、関係するのかな?」と投げかけてみてください。

以下に生徒への質問の例を挙げます。これを参考に、独自の質問を作ってください。なお、「関係ない」結論づけて思考を停止させないように、誘導しましょう。

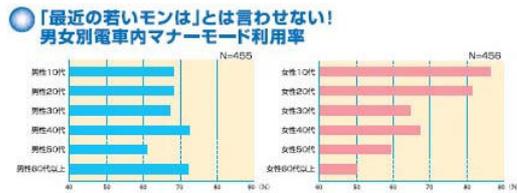
質問例	独自の質問
メールが少ない派は 361 人中の 27%だから、約 97 人。メールが多い派は 604 人中の 35%の 211 人。単純に数で比べれば倍以上。これでも関係ないかな?	

### 補助資料としてお使いいただく場合

該当ケース No. : 「ケース No.2 ケータイ持ってなきゃ、友だちじゃない?」

持つ者と持たざる者の話をするとき、こんな資料もあるとして提示することができます。5 ページの「どこが違う? メールと直接会って話すこと」という資料と関連づけて扱ってもよいでしょう。

○ 「最近の若いモンは」とは言わせない！男女別電車内マナーモード利用率」について



資料の読み方

男性は 50 代の低利用率がほかの世代に比べ、目立ちます。女性は年齢と共に利用率が低下していきます。男女ともに 40 代はやや積極的に使っている傾向が見られます。

授業の展開

「このような傾向を生む原因は何か？」これを議論のポイントとして授業を展開してください。

以下に生徒への質問の例を挙げます。これを参考に、独自の質問を作ってください。

質問例	独自の質問
みんなにマナーモードを使ってもらうようにするためには、どんな方策があるかな？	
マナーモード告知のためのちらしやポスターを作ってみよう。	

補助資料としてお使いいただく場合

該当ケース No.: 「ケース No.7 人のふり見て我がふり直せ…だね」。子どもたちが公共の場で感じていることと統計上の差異があったかどうかを、確認してみるとよいでしょう。

# ● 「携帯報道」 解説と活用のヒント

テレビや新聞、雑誌で話題の最新ケータイ情報。そんな新機能を賢く使う方法や、安全に安心して使うためのお役立ち記事を書き入れてみよう。さらには世の中の生活が便利になるような新機能を想像して、その広告を書き込んでみよう。

### ケータイで上品な音楽を

スマートフォンやタブレット端末の普及に伴って、音楽の楽しみ方も大きく変わりました。今回は、音楽を楽しむための最新ケータイ機能を紹介します。

まず、高音質の音楽再生機能が注目されています。従来のケータイよりも、高音質の音楽再生が可能な機種が増えています。また、高音質の音楽再生を実現するために、高音質の音楽ファイルのダウンロードや、高音質の音楽ファイルの再生機能も注目されています。

また、高音質の音楽再生を実現するために、高音質の音楽ファイルのダウンロードや、高音質の音楽ファイルの再生機能も注目されています。

### 携帯報道

ケータイで最新のニュースや情報を手軽に取得できる「携帯報道」が注目を集めています。今回は、携帯報道の最新機能や、その活用方法について紹介します。

まず、携帯報道の最新機能として、高音質の音楽再生機能が注目されています。また、高音質の音楽再生を実現するために、高音質の音楽ファイルのダウンロードや、高音質の音楽ファイルの再生機能も注目されています。

また、高音質の音楽再生を実現するために、高音質の音楽ファイルのダウンロードや、高音質の音楽ファイルの再生機能も注目されています。

見出し

記事

写真・図

記事

こんな使い方をすると便利、あるいは安全、安心な使い方ができる、という世の中の役に立つアイデアを考えて掲載してみよう。

キャッチコピー

写真・図

記事

友だちや家族と楽しく使えたり、生活が便利になる新機能を考えよう。

「みんなのケータイ2」の p.22~23 「携帯報道」は、当テキストの中で、唯一、ケータイの機能について考えさせるページです。掲載されている記事よりも、紙面下欄に設けた、記事の作成コーナーに取り組む比重を高くして、授業を行ってください。

## ■ 記事作成コーナーの概要と活用ヒント

ページの作成コーナーごとに、書き込んで欲しい記事の概要やポイントを説明します。

### Op.22 の作成コーナーについて

書き込み欄は、「写真・絵」「見出し」「記事」の3カ所です。



p.22には、既存のケータイの機能をヒントに掲載記事を考えさせ、それを書き込ませます。

記事を考えさせるときのポイントは次の3つです。

- ・ 便利
- ・ 安全、安心
- ・ 世の中の役に立つ

<メモ>

3つのポイントが含まれた記事にするためには、既存のケータイの機能が「使い方を工夫することで、これだけ有効なものになる」ということを意識しつつ、作業するように指導してください。

いきなり記事を書かせるのではなく、アイデアを出してから書かせるように指導すると、作成作業がスムーズにいきます。

以下にアイデアの例をあげます。これを参考に、独自のアイデア例を作ってください。

アイデア例	独自のアイデア
映画館や劇場などでは、無料ケータイ充電サービスとして、観客全員のケータイを預けさせる。ケータイは、劇場入り口のチケット提示の際に預ける。	

<メモ>

「写真・絵」を作業する際、手書きイラストが苦手、あるいは難しいという生徒には、カタログや雑誌から切り抜き、貼り付けるようにすすめてください。

## Op.23 の作成コーナーについて

書き込み欄は、「写真・絵」「キャッチコピー」「記事」の3カ所です。



p.23 には、ケータイに追加したい新機能を掲載記事として考えさせ、書き込ませます。

記事を考えさせるときのポイントは次の3つです。

- ・ 既存ケータイにない、全くの新機能
- ・ 楽しく使える
- ・ 生活を便利にする

<メモ>

・ 3つのポイントが含まれた記事にするためには、「自分が欲しいと思う機能」を意識しつつ、作業するように指導してください。

以下に新機能の例をあげます。これを参考に、独自の新機能例を作ってください。

新機能例	独自の新機能例
高齢者用に、万歩計機能を搭載する。指を押し当てて血圧が測れる機能	
通訳機能。受話器越しに言語翻訳されて通話相手に伝わる。	
切符代わりにするケータイは改札を通ったら自動的にスリープモードになり、同時に電磁波を出さなくなる機能。	
お友だち通知機能。ケータイに登録した人物が近づいてくると、ケータイのパネルが発光してお知らせする。	

<メモ>

- ・ 新機能の「写真・絵」については、図解のようなイラストを手描きで作成することが望ましいですが、その限りではありません。
- ・ 手書きイラストが苦手、あるいは難しいという生徒には、カタログや雑誌から切り抜き、貼り付けるようにすすめてください。

## ■「携帯報道」記事作成を含めた授業展開

「携帯報道」のページ自体は、当テキスト内ではオプション的な存在ですが、記事を作成するという作業だけでも、授業は成り立ちます。

以下は、新聞作成を通じた授業展開の例です。当テキスト内の事例に沿った授業とは別に、この作業を行う場合の参考にしてください。

### ○「携帯報道」記事作成による授業展開例

取材・情報収集	記事にするための、素材を集めさせましょう。独自にアンケートを実施したり、クラスの生徒に取材を行うなど、させてみましょう。
---------	--



情報の整理・まとめ	情報が集まったら、それを整理させましょう。
-----------	-----------------------



記事作成	整理した情報をもとに、記事原稿を書かせます。
------	------------------------



発表	全員の前でプレゼンテーションを行う、あるいはクラス内でランダムに配布し見せ合うなど、自分以外の生徒に読ませレビューします。
----	---



フィードバック	レビュー後、自分が面白いと思った、ほかの生徒の記事をまとめさせましょう。自分以外の人間の視点を習得することができます。
---------	---

## 「みんなのケータイ2」を使った授業例

2006年10月19日(木)に青梅市立第一中学校(東京都)での公開授業の様態を例に、  
「みんなのケータイ2」を使った授業の例をご紹介します。

## ● レポート「みんなのケータイ2」 青梅市立第一中学校公開授業

モバイル社会研究所の取材による当日のもようを簡単にご紹介いたします。

### ■ ケータイのある風景 ～ マナー違反を探せ ～

まず始めに、テキスト（17ページ）を使用したプレワークが行われました。それは、ごく普通の街の風景（イラスト）の中から、マナー違反だと思われるケータイの使い方を指摘する、というものです。生徒たちから出た意見の一部を紹介します。



- ・ 映画館でケータイを使用している
- ・ 勝手に他人の写真を撮影している（盗撮）
- ・ 自転車に乗りながらケータイを使用している
- ・ 歩きながらメールを打っている
- ・ 一般の店舗で勝手にケータイの充電を行っている

先生からは、「ケータイは非常に便利なツールである一方、実際にはその使用方法において様々な問題が起こっている」との指摘がありました。

青梅第一中学校では、ケータイの所有率が約6割と比較的高く、生徒一人一人がケータイを用いたコミュニケーションについて知識を持つこと、加えて、未来を予測する能力を含めた「トラブルに対応する力」を身に付けてほしい。このような先生方の思いを背景として、今日の授業の実施に至ったようです。

### ■ ワーク実践 ～ ケータイトラブル・問題はどこにあるのか ～

次に、教材「みんなのケータイ2」に記載されているいくつかのトラブルの事例（マンガ）を参照し、「いったい何が問題なのか」、「どんなトラブルが起こりそうか」について考えるワークが行われました。

授業は、

グループで話し合った結果をワークシート1に記入。



グループごとに、ワークシート1に記入した内容を発表。  
ほかのグループは、その内容をワークシート2に記入。

という流れをとりました。ワークシート1の記入例は次ページをご覧ください。

○「ケース No.02 ケータイ持ってなきゃ、友だちじゃない!？」の記入例

ワークシート1

今こそ考えよう、ケータイとコミュニケーション (1)

1. グループで選んだ事例について、どんな問題点があるかを書き出してみましょう。

事例の番号 ケース 2	事例の名前 「ケータイ持ってなきゃ、友だちじゃない!？」
どんな問題点があるか <ul style="list-style-type: none"> <li>・ケータイを持っている人たちだけで仲間になってしまう。</li> <li>・ケータイを持っていない人とのつながりが少なくなる。</li> <li>・持っていない人が仲間はずれになってしまう。</li> </ul>	

2. グループで話し合い、「中学生として気をつけなければならない点」「あなたが保護者だったらどんな点に気をつけるか」「あなたが携帯電話会社だったらどう対応するか」を考えて出し合い、各グループに発表してもらいます。(発表者を決めておこう)

中学生として気をつけることは (出会わないためにどうするか) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ケータイの話をなるべく持ち込まない。</li> </ul> (出会ってしまったらどうするか) <ul style="list-style-type: none"> <li>・話を違う方向に持って行く。</li> </ul>
あなたが保護者の立場だったらどうするか <ul style="list-style-type: none"> <li>・なくさめる。</li> </ul>
あなたが携帯電話会社の立場だったらどうするか <ul style="list-style-type: none"> <li>・ケータイの話をなるべく持ち込まない。</li> </ul>
その他気づいたこと、考えたこと <ul style="list-style-type: none"> <li>・ケータイを持っている持っていないにかかわらず仲良くしたい。</li> <li>・ケータイを持っていない人の悪口は言いたくない。</li> </ul>

先生からのコメント：

ケータイを利用する人が増えたといっても、まだ全員が持っている訳ではない。今後は、ケータイを持っていない人が少数派になる恐れがあり、ケータイを持つ人と持たない人がきちんとコミュニケーションを行えるのか、重大な問題になりうる。

(補足)：この授業の記事や概要を、以下のURLページでご覧いただけます。

[http://www.moba-ken.jp/activity/report/061019/report\\_oume.html](http://www.moba-ken.jp/activity/report/061019/report_oume.html)

[http://www.tokyo-np.co.jp/00/dgi/20061030/ftu\\_\\_\\_\\_dgi\\_\\_\\_\\_000.shtml](http://www.tokyo-np.co.jp/00/dgi/20061030/ftu____dgi____000.shtml)

<http://www.manabinoba.com/index.cfm/4,7981,249,htm>